



南條 輝志男 *Kishio Nanjo*

公立大学法人和歌山県立医科大学理事長(学長)

1970 年和歌山県立医科大学卒業。1984 - 1986 年 米国シカゴ大学留学。1989 年和歌山県立医科大学教授(内科学第一講座)。2005 年和歌山県立医科大学学長に就任以来、「個性輝く、魅力溢れる大学創り」に奮闘中。2006 年公立大学法人和歌山県立医科大学理事長(学長)。糖尿病に関する遺伝子研究により 1986 年日本糖尿病学会リリー賞、日本医師会研究奨励賞、2003 年日本糖尿病学会ハーゲドン賞を受賞。現在、日本糖尿病学会、日本臨床分子医学会、日本病態栄養学会などの常任理事、日本体質医学会理事長。

ケアマインドを重視した医療人の育成

近年の目覚ましい医学の進歩により、仏教でいわれる四苦「生老病死」のメカニズムが遺伝子レベルで解明されつつある。しかし、このような医学 (Science) の進歩が、人類の幸福、四苦の解消に直接的に貢献しているとは言い難い。医療の対象は人間であり、患者とその家族に対する心のケアもまた非常に重要であるが、医学教育の現場では治療学 (Cure) が重視され、ケア (Care) に関する教育が軽視されがちである。

和歌山県は、世界で初めて全身麻酔下での乳癌摘出術に成功した華岡青洲を輩出している。彼は約 200 年も前に外科手術 (Cure) と疼痛緩和 (Care) の両者を実践したと言える。本学は彼の精神を継ぎ、Cure と Care のバランスを重視した医学教育 (ケアマインド教育) に取り組んでおり、その実際を紹介したい。